

## 感染症・予防接種レター (第63号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会

委員長 多屋 馨子	副委員長 岡田 賢司	乾 幸治	三田村敬子	並木由美江
菅原 美絵	津川 毅	古賀 伸子	三沢あき子	渡邊 久美

## 保育園の感染症対策の看護職の取り組みについて

新年度になり新しい子どもたちが入園してくる。特に0, 1歳児クラスで入園する子どもたちは、生後初めての集団生活となる場合が多い。保育園は、子どもの成長を育み、家庭のような場所であるが、成長発達に未熟で免疫を持たない乳幼児が長時間一緒に過ごすことから、感染症に罹患しやすく欠席も多い。子どもたちを感染症から守り、感染症の蔓延を防ぐためには、接種できるワクチンはすべて接種してからの入園を望みたいが、現状は難しいところがある。

3月になると、新入園児の面接と健康診断があり、その際に母子健康手帳を確認し、出生時の状況や健診・予防接種状況を保護者に確認する。近年子どもたちは多くの種類の予防接種を受けることができるようになり、ほとんどの子どもたちが、その月齢に接種すべき予防接種を済ませている。平成28年10月から、B型肝炎の定期予防接種が始まり、着実に既接種者が増えていることを実感している。しかし中には予防接種の記録欄が真っ白な状態の児もあり、また1回接種のみでその後の追加接種が進んでいない場合もある。このようなことに気づいた場合は、推奨される月齢で接種を受けるように指導している。また同時に、平成24~25年の風疹の流行を説明し、保護者の予防接種・罹患状況についても確認して、2回の予防接種を受けておくことを推奨している。

入園後、保護者が仕事に復帰して多忙になること、子どもの体調不良もあり予防接種の接種機会を確保することが難しくなる。それが保育園児の課題である。予約日に発熱すると接種機会を逃し、その後の予約を忘れてしまう傾向が認められる。そこで毎年度の初めに、クラスごとに予防接種の一覧表を作成し、未接種児を一目で把握できるようにしている。その後は身長や体重の計測値や健診結果を保護者に伝える健康カードに予防接種の記録欄を作成し、保護者と毎月1回

健康カードを交換して接種状況を更新してもらうことで、園での記録を更新している。未接種や接種間隔が空き過ぎていることに気づいた場合は、保護者に伝えることによって、接種を促す機会としている。年長児(5歳児クラス)の麻疹風疹混合(MR)ワクチンの第2期の接種についても同様に、接種歴の把握と未接種者への勧奨に活用している。このように個別に対応することで、特別な事情で接種が受けられない子どもたちを除いて、3月31日までに全員の接種が完了した。

水痘は平成26年10月から定期の予防接種として2回接種が可能になったことにより、患者数が激減した。また、接種歴のある子どもは罹っても発疹数が少なく、痂皮化したのを見つけにくいという特徴がある。予防接種一覧表には感染症罹患状況についても記録欄を作成し、水痘については一人発症したら、未罹患でワクチン未接種あるいは1回のみ接種の場合には主治医とすぐに相談するように勧めている。

感染症の予防対策の一環として、日頃から、感染症の保育園サーベイランスを利用して情報を収集している。感染症の発生を探知した時は、症状や潜伏期間などの情報を保健だよりや園内掲示等で保護者と職員に知らせ、予防啓発に努めている。情報を早期に提供することで、かかりつけ医受診時に保育園での感染症発生状況を保護者から伝えてもらうことが可能となり、早期診断、早期治療、子どもにとっての早期回復につながることを期待される。

保育園は園児のみならず、保護者、お迎えの祖父母、兄弟姉妹、地域の子どもたちが利用することも多い。保育園の看護職は、職員と保護者が感染症についての正しい知識を持ち、感染拡大を予防し、子どもだけでなく、家族、職員も一緒に感染症から守れるように、日々活動している。